

## 弘前大学における男女共同参画推進の取組

弘前大学は、平成21年8月に男女共同参画基本計画・同行動計画を決定、同年10月に男女共同参画推進室を設置し、平成22～24年度には文部科学省女性研究者研究活動支援事業「つながルネットワーク！地域でつなぐ女性人才」を実施した。事業終了後は、支援対象を全ての研究者に拡げ、さらなる発展を目指している。それらの成果や取組を以下に示す。

### 【女性教員比率向上に向けた取組】

#### 1. 目標値設定

本学では、「男女共同参画推進に関わる行動計画」において、「女性教員比率を平成27年までに20%に向上」するとした(平成21年8月教育研究評議会決定。助手を含む)。

#### 2. 学部・研究科長との面談とプロジェクトチームの発足

本学の女性教員比率は、平成21年は13.6%だったがおおむね毎年向上し、平成26年には17.8%になった。しかし、目標値の20%には達していない。そこで、平成25年12月から26年2月にかけて全ての学部・研究科長と面談し、状況や問題把握を行うとともに、男女共同参画推進室の部局選出室員による「女性教員比率向上プロジェクトチーム」を組織した。

#### 3. 学長への提案

本年4月に学長に「各学部・研究科で女性教員比率等の達成目標を期限付きで決定する」「本学HP教員公募情報トップに、ポジティブアクション文言を記載する」の提案を行った。前者は現在検討中であるが、後者は役員会で了承され、本年6月より実施している。(ポジティブアクション文言「弘前大学は、男女共同参画を推進しており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。」)

また、農学生命科学部では学部長が本課題に積極的に取り組む姿勢を示し、本年4月から、より積極的なポジティブアクション文言「弘前大学では男女共同参画を推進しております。農学生命科学部では『男女共同参画基本法』の趣旨により、業績(研究・教育研究評議会・社会貢献)において同等と認められる場合は、女性の応募者を優先的に採用します。」を公募要領に記載している。これにより、女性教員1名が採用され(本年11月着任予定)、農学生命科学部ではこの2年間で2名の女性教員が公募採用された。

### 【ワーク・ライフ・バランス(WLB)支援】

平成25年度までは主に女性研究者に対してWLB支援を行ってきたが、平成26年度からは全ての研究者を支援対象とし、支援内容の見直しを行った。

#### 1. 子育て・介護中の研究者支援制度

昨年度までは出産・育児・介護中の女性研究者を対象としたが、今年度からは性別を問わずライフイベント(出産・育児・介護)により多忙な全ての研究者を支援対象とした。現在は、女性3名、男性4名の計7名の研究者に12名の支援員(本学学生)を配置している。

#### 2. 学会参加時の託児支援制度

昨年度までは本学及び弘前市内で開催される学会等に対し託児費を補助していたが、今年度からは本学の全ての研究者に対して、国内外の学会等に参加する際の託児費を補助することにした。

#### 3. 研究者等のニーズ把握とネットワーク強化

女性教員と女子学生の交流の場であった「女性研究者フォーラム」を、性別等を問わず誰でも参加できる「さんかくカフェ」とし、教職員のニーズ把握等を行っている。これにより、女性医師のための更衣室や女性職員休養室が設置されることになった。

### 【次世代育成事業】

#### 1. 女子学生による理系進学相談会

オープンキャンパスにて、学部を超えた理系分野の女子学生による女子高校生を対象とした進路相談会を開催した。

#### 2. 理系女子学生のネットワーク構築の支援

理系分野の女子学生を対象とした理系女子会を実施した。

#### 3. 女子学生のキャリア教育支援

研究者支援制度や小・中・高校生を対象にした科学イベントでの指導等を通して、女子学生へのロールモデルを提示するとともにキャリア教育を行っている。

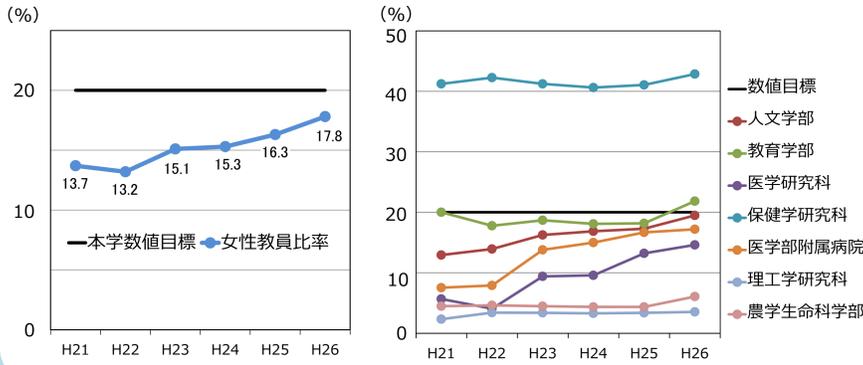
---

### 【連絡先】 弘前大学 男女共同参画推進室

TEL:0172-39-3888 FAX:0172-39-3889 E-mail:equality@cc.hirosaki-u.ac.jp

URL: <http://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/equality/>

## 目標 平成27年までに女性教員比率20% (助手含む)



平成21年に「男女共同参画推進に関わる行動計画」を策定し（平成21年8月教育研究評議会決定）、『女性教員比率を平成27年までに20%に向上』するとした。

平成21年から5年間で、全学の女性教員（助手を含む）は93名から135名に増加し、女性教員比率は13.7%から17.8%に増加した（助教以上は16.3%）。

医学研究科（5.7%→14.6%）と医学部附属病院（7.5%→17.2%）は、この5年間で女性教員が著しく増加した。

平成25年10月のJST事後評価ヒアリングにて、学長が「平成27年までに理工学研究科・農学生命科学部の女性教員を合わせて1.5倍（6名→9名）にする」と明言し、農学生命科学部はこの2年で女性教員が3名から5名に増加した（4.3%→7.4%）。

平成26年6月から、全学HPの教員採用ページに全学統一のポジティブアクション文言『弘前大学では、男女共同参画を推進しており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。』を頁頭に記載している。

全学部長・研究科長との面談等を通して意識啓発を行い、農学生命科学部では平成26年4月から公募要領に全学統一記載より踏み込んだポジティブアクション文言『「男女共同参画社会基本法」の趣旨により、業績（研究・教育・社会貢献）において同等と認められる場合は、女性の応募者を優先的に採用します』が記載され、女性教員1名が採用された。

また、今年度から教育研究評議会に3名の女性評議員が任命された。

## 女性研究者支援から研究者の ワーク・ライフ・バランス支援へ

### JST支援事業期間(H22-24)

#### 研究支援員制度

出産・育児・介護中の女性研究者に研究支援員（本学学生）を配置

H24-25年度に、女性研究者8名に対して支援員15名配置



### 現在(H25~)

#### 子育て・介護中の 研究者支援制度

性別に関わらず育児・介護中の研究者に研究支援員（本学学生）を配置

H26年度は、6名の研究者（女2名男4名）に12名の支援員を配置

#### 女性研究者フォーラム

学部を超えた女子学生と女性教員の交流の場として隔月で開催

H22-24年度に16回開催のべ400人以上が参加

#### さんかくカフェ

性別・学部・立場を超えて、男女共同参画について語り合える場として年2回開催

学長も参加!



#### 学会託児支援

弘前大学及び弘前市内で開催される学会に対して託児費を補助

H23-25年度に、6学会2シンポジウム（のべ54名）に対して支援

#### 学会参加時の 託児支援制度

弘前大学の研究者が学会等に参加する際の託児費を補助（H26年10月～）

#### 教員の裁量労働制導入

H22年に本町地区（医学研究科・保健学研究科・附属病院）の教員に対して裁量労働制が導入

#### 全教員が裁量労働制に

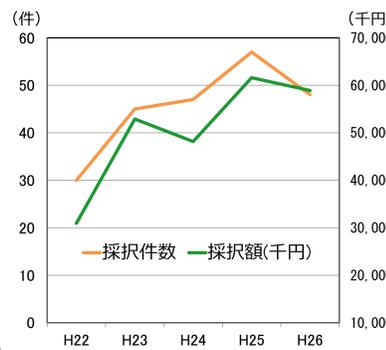
H26年6月より、全教員に対して裁量労働制が適用

## 研究者の研究力向上支援

本学の科研費採択率は  
男女ほぼ同じ

全学をあげた取組により  
全体的に研究力が向上

### 女性研究者の科研費採択件数&採択額



- ・H20年度から全研究者に対して科研費申請を義務化
- ・H21年度から科研費獲得支援事業を実施
- ・H22年度から科研費アドバイザー制度を実施
- ・H24年度から、部局ごとの科研費申請書類のアカデミックチェックを完全義務化
- ・H25年度から科研費獲得スキルセミナーを開催
- ・若手・新任研究者支援事業を継続

### 参加者の要望から実現

女性医師のための更衣室(本町地区)  
女性職員のための休養室(文京地区)

### ひろだい保育園

平成20年開園  
年末年始を除く毎日  
24時間対応  
・基本保育（月極）  
・一時保育  
・夜間保育

今年度から定員が50名に増え、待機児童ゼロに



### 女性研究者の紹介

弘前大学の総合文化祭や青森県男女共同参画センター「アピオあおもり」、弘前市民参画センターのイベント等にて、本学の女性研究者の研究内容などを紹介するパネル展示を行っている。



## 次世代育成事業

女子学生による  
理系進路相談会  
(オープンキャンパス)



科学者発見プロジェクト  
(小・中・高校生が提案した  
研究テーマを本学研究者と共に体験)



ひらめき☆ときめきサイエンス  
(JST:H26年度は3件採択)



理系女子会  
理工学部  
農学生命科学部  
教育学部



サイエンスへの招待  
楽しい科学 (理工学部)



女子高校生を中心とした  
理系研究体験講座  
(青森県進学カバワーアップ推進事業)

女子高校生工学チャレンジ  
サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)

ラボ・バスプロジェクト  
(教育学部:小・中・高へ出張実験授業)



理科離れ対策委員会